

平成30年度地方創生関係交付金

事業実施評価

令和2年3月 むつ市

■市内部評価凡例

<事業効果>

①	地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組として前身・改善したとは言い難いような場合

<今後の方針：地方創生関係交付金事業計画期間が継続するもの>

①	事業の継続（計画通りに事業を継続する）
②	事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等変更発展させる）
③	事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う（または、行った））
④	事業の終了（当初予定通り事業を終了する（または、した））

<今後の方針：地方創生関係交付金事業計画期間が終了したもの>

①	事業内容を変更せずに継続する（地方創生関係交付金または他の財源を活用する場合を含む）
②	事業を拡大して継続する（地方創生関係交付金または他の財源を活用する場合を含む）
③	事業の一部を継続する（地方創生関係交付金または他の財源を活用する場合を含む）
④	事業を終了する
⑤	未定

地方創生推進交付金事業に係る事業実施評価表

No.	事業名	事業の概要	事業詳細	実績額 (交付金額)	重要業績評価指標(KPI)			内部評価		外部評価	
					指標	目標指標値	実績値	事業効果	今後の方針	事業効果(※)	主な意見
1	下北ジオパークによる観光地域づくり(しもきたDMO)推進事業	別々に事業を進めている観光振興策とジオパーク活動を一体的な取組とすることで、ジオパークを核とした地域連携DMOの登録を目指し、交流人口、活動人口の拡大を実現することで、地域経済の活性化及び雇用の増加へとつなげ、将来にわたって活力ある持続可能な地域社会の形成に取り組む。	①しもきたDMO推進事業 ○しもきたTABIあしずと負担金 ・DMO推進事業、運営事務費、下北観光プロモーション事業、広域パンフレット作成事業、リゾートあすなろ誘客宣伝推進事業 ○下北ジオパーク推進協議会負担金 ・運営事務費、JGN加盟関連事業、ジオパーク理解促進事業、教育研究保全活動等関連事業、ジオパークプロモーション事業	33,855,000円 (16,121,000円)	年間観光入込客数	1,728,163人 (6市町村)	1,751,920人 (6市町村)	①地方創生に非常に効果があった	<計画継続> ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)	③地方創生に効果があった	・年間観光入込客数について、KPIは達成しているものの、前年度と比較し、減少傾向にある。 ・ジオパークの推進でインバウンドが増加すると思っていたが、今後はその視点も大事ではないか。
			②アウトリーチ活動展開事業 ○ジオパーク推進員報酬費用弁償、各種旅費、消耗品費		ジオパーク認知度	67.0%	93.7%				
			着地型旅行商品ツアー実施回数		30回	27回					
2	「むつ市のうまい三本の矢」による地域ブランド化推進事業	「流通販路拡大戦略」、「農産品等の新商品開発」、「地元産品のブランド化」を中心とした取組を通じて、多様な関係者と連携を図りながら、販路開拓、6次産業化、地域ブランド開発による個々の産品や商品の知名度向上を図ることで、「むつ市」の知名度・認知度・地域ブランドの価値向上につながり、地域の「稼ぐ力」を引き出す。	①海外展示商談会・見本市出展事業 ・海外(香港、シンガポール)商談会参加費 ②特産品生産拡大支援事業 ・一球入魂かぼちゃ生産拡大補助金 ③アグリビジネス事業 ・ファンド組成費用助成金 ④アグリビジネス事業 ・ファンド利用希望者の募集、広報(利用者とはなし)	5,850,000円 (2,925,000円)	1次産業の生産額	4,644,515千円	4,751,000千円	①地方創生に非常に効果があった	<計画終了> ①事業内容を変更せずに継続する(地方創生関係交付金または他の財源を活用する場合を含む)	②地方創生に相当程度効果があった	・むつ市の水産品について、それぞれ魅力的なものは多いと思うが、具体的に何というものが無い。全てが「むつ市のうまい」であることは承知しており、様々な要因があるものの、今後セットでアピールできれば。
			人口一人当たりの市民所得		2,401千円	2,286千円					
			域外事業者との新規取引件数		15件	19件					
3	創業×女性×移住による挑戦の地「むつ」創生事業	創業を希望する方に対する構想段階から創業初期までの伴走型支援、創業希望者に対する無料託児サービスや子育て支援施設との連携による女性の働く場の創出などの取組によって、少子高齢化と人口減少による地域商業の衰退に対して、創業を支援する体制を構築し、女性及び移住者の創業施策にもつなげていく。	①起業家ワンストップ支援事業 ・下北創業塾開催関係費(講師謝金・費用弁償・会場使用料) ②FAAVOLもきた運営協議会負担金 ・クラウドファンディング「FAAVOLもきた」運営協議会負担金 ③「新・3種の神器」商店街活性化事業 ・まちゼミアドバイザー委託料、まちゼミの会補助金(むつ・大畑)	3,888,000円 (1,943,000円)	女性・移住者創業件数	18件	4件	①地方創生に非常に効果があった	<計画終了> ①事業内容を変更せずに継続する(地方創生関係交付金または他の財源を活用する場合を含む)	③地方創生に効果があった	・就業環境は、処遇・制度面での改善・対応も必要と料する。
			女性・移住創業相談件数		67件	26件					
			田名部駅前通り歩行者通行量		535人	528人					
4	くま・ひと・いるか>イルカと人との共生によるふれあいビーチinむつわん	陸奥湾周辺海域に来遊するイルカの生態の調査・研究を行うとともに、イルカを保護し、イルカの棲む自然を守りながら教育及び観光に活用することを目的とした協議会を多様な関係者との連携により設立し、ドルフィンウォッチングという新たな地域資源を活用した観光戦略による交流人口拡大を目指し、さらに調査研究を目的としたイルカふれあいビーチの開設に向けて取り組む。	①むつわんイルカふれあい協議会負担金 ・基礎調査費(漁船使用料)、モニターツアー開催経費、ふれあいビーチ開設費(飼育網購入費、設置業務委託費) (※H30は試験的に網を設置)	18,720,000円 (8,864,000円)	川内・脇野沢地区における観光入込客数	161,923人	144,689人	③地方創生に効果があった	<計画終了> ③事業の一部を継続する(地方創生関係交付金または他の財源を活用する場合を含む)	③地方創生に効果があった	・むつ市コミュニティセンター脇野沢温泉を核とした周辺観光(北限サル、冬季鱈料理、イルカウォッチング)を策定してはどうか。
			市内宿泊者数		166,842人	148,838人					
			ドルフィンウォッチングツアー参加者数		100人	59人					

※ 外部評価の事業効果については、「むつ市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」委員の皆様からいただいた評価を集計の上、一番意見の多かったものを記載

地方創生拠点整備交付金事業に係る事業実施評価表(H28補正(H29実施事業))

No.	事業名	事業の概要	事業詳細	実績額 (交付金額)	重要業績評価指標(KPI)			内部評価		外部評価	
					指標	目標指標値	実績値	事業効果	今後の方針	事業効果(※)	主な意見
1	脇野沢コミュニティセンター(銭湯)を核にした脇野沢小さな拠点整備事業	地域住民による地域デザインを策定し、それに基づき、地域住民自らが主体となった地域運営組織(現:わきのさわ湯好会)の活動拠点及び脇野沢地域の資源を活用した体験交流拠点として、遊休公共施設を「(仮称)脇野沢コミュニティセンター(銭湯)」(現:むつ市コミュニティセンター-脇野沢温泉)へと整備することで、地域住民が自らの活動により、しごと・収入を確保するサイクルを創り出す。	<H28補正(H29実施事業)> ①体験交流拠点エリア整備事業 ②コミュニティセンターエリア整備事業 ③体験型ビジネスづくり事業・備品購入 ④地域産型学習プログラム ・ガラスハウス修繕	89,056,000円 (44,472,000円)	地域拠点施設利用者数	3,000人	8,716人	- (地方創生拠点整備交付金活用計画期間を終了しているため)	- (地方創生拠点整備交付金活用計画期間を終了しているため)	②地方創生に相当程度効果があった	・むつ市コミュニティセンター脇野沢温泉を核とした周辺観光(北限サル、冬季鱈料理、イルカウォッチング)を策定してはどうか。
					地域運営組織への関与住民数	15人	49人				
					地域運営組織の事業収入額	300千円	230千円				

※ 外部評価の事業効果については、「むつ市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」委員の皆様からいただいた評価を集計の上、一番意見の多かったものを記載

地方創生拠点整備交付金事業に係る事業実施評価表(H28補正(H29実施事業))

No.	事業名	事業の概要	事業詳細	実績額 (寄附充当額)	重要業績評価指標(KPI)			内部評価		外部評価	
					指標	目標指標値	実績値	事業効果	今後の方針	事業効果(※)	主な意見
1	次代を担うプラチナ人財育成プロジェクト	弘前大学及び青森中央学院大学と共同で設置した「むつサテライトキャンパス」を活用した市内における教育機会の充実や、原子力関連施設が集積している下北地域の特性にマッチした資格取得、そして、医師不足という地域課題に対応した、将来の地域医療を担う若者への支援を行う。これらの事業を一体的に展開することで、本市の未来に必要な人財へと育成し、地元就職、地元定着へとつなげ、人口減少に歯止めをかけるとともに、持続可能な地域づくりを目指す。	①フィールドを活かした地域人財育成事業 ○むつサテライトキャンパス事業 ・航海専門講座の実施、滞在型学習支援、むつサテライトキャンパス大学祭開催費 ②地域にマッチした産業人材育成事業 ○地域企業連携強化事業 ・放射線第2種取扱主任者試験に係るテキスト費用、下北むつ市企業連携協議会会費負担金(講習会開催) ③医師を目指す未来人材育成事業 ○未来人材育成奨学金プロジェクト ・医学部修学助成金	4,390,000円 (1,350,000円)	本事業を通じた市内への就職者数	8人	7人	②地方創生に相当程度効果があった	<計画継続> ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)	③地方創生に効果があった	第2種放射線取扱主任者の高校生合格者がなかったことは残念。周知をより一層すべき。
					第2種放射線取扱主任者高校生合格率	3人	0人				
					市内高等学校からの医学部入学者数	3人	3人				
2	子どもの笑顔かがやくムチュらんどプロジェクト	運営を開始した本市の子育て拠点施設「ムチュらんど」において、子ども遊び場、親子のふれあい及び子育て情報交換の場として、機能の充実を図るとともに、経験豊富なシニア世代にボランティアとして活動してもらうことで、子どもと多世代の触れ合いを創出し、世代間の理解を深め、子育てに対する不安の解消を図るなど、地域の交流の場を設け、地域が一体となって子育てを支える環境づくりを推進する。	①ムチュらんど運営事業 ・賃金、備品購入、その他経費	7,272,000円 (1,950,000円)	出生数	400人	341人	②地方創生に相当程度効果があった	<計画継続> ①事業の継続(計画通りに事業を継続する)	②地方創生に相当程度効果があった	-
					ムチュらんど利用者数	28,800人	28,552人				

※ 外部評価の事業効果については、「むつ市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」委員の皆様からいただいた評価を集計の上、一番意見の多かったものを記載

むつ市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員評価結果

事業名		内部評価	評価欄（評価者11名）								
			①非常に効果があった		②相当程度効果があった		③効果があった		④効果がなかった		
地方創生推進交付金	1	下北ジオパークによる観光地域づくり（しもきたDMO）推進事業	①	2	18.2%	4	36.4%	5	45.5%	0	0.0%
	2	「むつ市のうまい三本の矢」による地域ブランド化推進事業	②	3	27.3%	5	45.5%	3	27.3%	0	0.0%
	3	創業×女性×移住による挑戦の地「むつ」創生事業	③	2	18.2%	1	9.1%	8	72.7%	0	0.0%
	4	<まち・ひと・いるか>イルカと人との共生によるふれあいビーチ in むつわん	③	0	0.0%	4	36.4%	7	63.6%	0	0.0%
交付金	1	脇野沢コミュニティセンター（銭湯）を核にした脇野沢小さな拠点整備事業	①	1	9.1%	7	63.6%	3	27.3%	0	0.0%
応援方創生	1	次代を担うプラチナ人財育成プロジェクト	②	1	9.1%	4	36.4%	6	54.5%	0	0.0%
	2	子どもの笑顔かがやくムチュらんどプロジェクト	②	0	0.0%	7	63.6%	4	36.4%	0	0.0%

■各事業について

- ・「非常に効果があった」事業について、さらに事業への取組を推進していただきたい。
- ・労働人口増加へ向けた取組を各種実施しており、相応の効果があると思う。一方で、就業環境は、処遇・制度面での改善・対応も必要と史料する。
- ・第2種放射線取扱主任者の高校生合格者がなかったことは残念。
- ・ジオパーク推進事業ははじめ、継続事業、新規事業について実績を残せるよう協力したい。
- ・対コストを見据えて慎重に対応しなければならないが、コストがかかるから即やめるという問題があるのではないか。例えば海自カレーなどは、ここでやめれば無駄になるし、裾野を広げることで化ける可能性もある。いずれにせよ、一過性で数字をコントロールするのではなく、長期のビジョンで達成する必要がある。行政、産業などで連携した取組には敬意を表するが、今回は空回り感がいなめない。
- ・自然を愛でる個人及びグループの散策がジオパークの魅力であり団体客を呼び込む観光とは思わない。
- ・多くの高齢者を含む女性グループによる手作り作品が催事等に出品販売されているが、地域の土産品として販促支援を考えても良いと思う。
- ・むつ市コミュニティセンター脇野沢温泉を核とした周辺観光（北限サル、冬季鱈料理、イルカウォッチング）を策定したらどうか。

■その他について

- ・交付金による成果が次代に生かされることが本来の目的である。